

第2回 和歌山県古墳時代研究会の報告

開催日時：平成24年3月24日（土）13:30～16:30

開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市岩橋1411番地）

発表：

「岩橋周辺の半島系遺物について」 富加見泰彦（紀伊風土記の丘）

岩橋千塚古墳群周辺で出土した半島系遺物について、実物を観察しながら解説します。先日、慶北大学校 朴天秀氏が来館した際にご教示いただいた半島系遺物の新たな知見についても紹介します。

「大日山70号墳について」 仲原知之（紀伊風土記の丘）

大日山70号墳は6世紀前半の古墳で、陶質土器と鍛冶工具が副葬されており、被葬者は鍛冶工人関係の渡来人の可能性が考えられています。当日は陶質土器、鍛冶工具などの出土遺物を観察できるようにします。

なお予定していた、萩野谷正宏（紀伊風土記の丘）発表「大日山35号墳の蓋形埴輪の観察」は諸事情により次回に延期することになりました。

参加者：（敬称略）

＜発表者＞ 富加見泰彦・仲原知之

＜参加者＞ 真鍋成史（交野市教育委員会）・北野重（柏原市教育委員会）・
呉谷有哉（同志社大学）・濱崎範子（由良町）・丹野拓（和歌山県文化財センター）・河内一浩（羽曳野市教育委員会）・加藤俊平（東海大学）

（以下風土記の丘ボランティア） 木村健・福場俊二・津田明子・芝田鶴子・岡本美代子・金森昌子・川本幸男 発表者2名+16名

【参加者のコメント】

<岩橋周辺の半島系遺物について>

仲原 : 発表の中で、県内には伽耶系・百済系・新羅系の土器が出土しているということですが、どの地域からもたらされたものが多いのか、また時期的に変遷するのか、という点について教えてください。

富加見 : 半島系の土器は、まず4世紀後半～5世紀初めに第1波が来ます。5世紀前半までは紀ノ川河口域が中心です。その後5世紀後半に韓式系土器が増加します。同時に竈も導入されます。その時には伽耶系・百済系が多いです。そして6世紀になると新羅系が増加します。6世紀後半の前山 A46 号墳では墳頂上に新羅系土器が出土しています。この古墳は谷間の古墳で立地はそれほどよくないので、主流ではない人が葬られているのではと思う。

仲原 : 先日、慶北大學校の朴天秀さんが風土記の丘に来訪されて半島系の遺物を見学しましたが、その際に聞いた情報があれば教えてください。

富加見 : 大日山 70 号墳の陶質土器は榮山江流域で、6世紀前半と断言していました。音浦遺跡の小型の壺は、百済系と言っていました。また、山東 22 号墳の玉類の中にサンドイッチガラスがあつて、これは新羅のものだろうと言っていました。大陸の西の方が起源の玉です。

仲原 : 秋月遺跡や鳴滝遺跡などでみられる初期須恵器について、窯跡はどこにあつたと考えていますか。

富加見 : 紀ノ川北岸のどこかだろう。楠見遺跡周辺が候補。須恵器大甕の乳状突起は陶邑にはない特徴。陶邑とは胎土も違っていて、和歌山のものは陶邑に比べて白っぽい胎土をしている。

<大日山 70 号墳について>

仲原 : 大日山 70 号墳の時期について、土器からはどのくらいと考えられますか。

富加見 : 陶質土器は6世紀第1四半期、須恵器の杯も同時期か、若干新しい可能性も。高杯はもう少し新しい。石室内の遺物が動かされていないような出土状況から追葬がないと判断されていますが、追葬の可能性も考える必要がある。

丹野 : 石室の特徴から、岩橋千塚ではまず大谷山 6 号墳と花山 6 号墳が古く、次いで大谷山 27 号墳・28 号墳が続く。その後くらいに大日山 70 号墳が来ると思う。大谷山 22 号墳や大日山 35 号墳より少し前ではないかと思ひます。写真を見ると玄室前道基石が側壁の袖の下に入り込んでいないようみ見えるので、これは大谷山 6 号墳や花山 6 号墳の影響を

受けている可能性がある。

- 北野 : 大日山 70 号墳の鍛冶道具の重さはどれくらいなのでしょう。
- 仲原 : 計ったことがないので今から計ります。鉄鉗は 215 g、鉄鑿は 110 g、鉄鎚は 320 g、もうひとつの鉄鎚は 305 g で、大日山 71 号墳の砥石は 162 g です。
- 真鍋 : 鉄鎚は製品製造用と考えられるが、320 g は重い部類に入る。
- 濱崎 : 鉄鉗はハの字状に広がる形態から日本的ではなく半島系と考えられる。日本産は肩部が発達している。鍛冶道具については、新羅や伽耶のものはやや小さく、大きさから百濟のものではないかと思う。一端が二股にわかれる鉄鎚状の工具は、鉄鎚の破損品の可能性があり、大小 2 つの鉄鎚であったかもしれない。鉄床の可能性もある。五條市の猫塚古墳では大小の鉄鎚が出土している。大日山 71 号墳の砥石については、これだけでは鉄器用とは限らないので、鍛冶工人の墓だとは言いきれない。あと、大日山 70 号墳の被葬者について、半島から渡来してきた鍛冶工人の有力者を考えているようですが、副葬品からは村上氏が述べている厚葬というより中葬といえるので、有力者というのには違和感がある。
- 真鍋 : 周辺の鍛冶集落は確認されていますか。
- 富加見 : 和歌山平野の鳴神地区遺跡ではふいごの羽口は出土するが、明確な鍛冶遺構は確認されていない。
- 真鍋 : 河内では鍛冶関連の最終段階の鉄滓を出土する集落は多い。半島では 5 世紀に地上式の鍛冶炉があるが、日本では調査例が少ない。南郷遺跡群では鍛冶炉は確認できていない。
- 北野 : 柏原市では方形の 1 m 四方の炭窯が検出されるが、和歌山ではそのようなものがありますか。
- 富加見 : 鳴神地区遺跡で、複数の方形の焼土坑が検出されたが、中に埴輪 1 個体が置かれたいたものがあるが、これらの焼土坑については埴輪窯の可能性も考えなければいけない。これらの焼土坑の壁面はあまり焼けていない。